

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇Vinyl SA 2014（南アフリカ）

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

■ [随想](#)

◇マラウイ共和国旅行記（1）－マラウイ共和国ってどんな国－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [編集後記](#)

■ トピックス

◇Vinyl SA 2014（南アフリカ）

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

インフラ整備や住宅・ビルの建造、農業用灌漑の普及などを背景に、新興国における塩ビの需要が伸びています。アフリカでも需要が立ち上がりつつあります。そのような背景の中で、10月22日、アフリカで、塩ビに関する初めての大きなシンポジウムとなる Vinyl SA 2014 が南アフリカ・ヨハネスブルグで開催されました。世界から、日・欧・豪の塩ビ協会専務理事らが、アフリカからは、レジン、添加剤、塩ビ製品等においてビジネスを行う企業から、全体で100名を超える参加者が集いました。



シンポジウムでは、持続可能な成長をテーマとし、ケンブリッジ大学持続可能性リーダーシップ研究所（Cambridge Institute for Sustainability Institute）教授のウィリス氏が全体のコーディネートを務めました。冒頭、世界で塩ビ産業が他のプラスチックに先駆けて環境問題に積極的に取組み、解決方法を示してきたとのコメントがありました。

シンポジウムでは、塩ビ製品によるインフラ整備への貢献、リサイクルへの取組み、化学物質管理に関する政府・ユーザ産業・消費者とのコミュニケーションなど様々なテーマが取り上げられました。南アは、2030年迄にプラスチック廃棄物の埋立処理を止める方針だそうです。ただ、現在は埋立処理費用が安価で焼却施設がないとのこと。国土が地形的に運搬・輸送がネックとなるため、今後、どう焼却施設を整えていくのか、人口密度の少ないところはどのようにするのかなどいろいろと課題は有りそうです。

そのような状況の中で、塩ビは市場においてリサイクルが進んでいるとのこと。そもそも、工場内で発生する端材は9割以上リサイクルされているとのこと。使用後の製品もリサイクル業者が引き取るとのこと。マテリアルリサイクル性能に優れていることと、人件費が安いために手選別でも経済性ができるということのようです。

南アフリカ塩ビ協会は、リサイクルを行う中間処理施設の作業者のための事務所として塩ビ製品で作成したハウス、端材をバッグなどの製品に加工するためのマシン、不幸にしてホームレスになっている人達のための布団代わりとなるマットを回収した塩ビ製垂れ幕で作成するなどの活動を行っているとのこと。

ヨハネスブルグは、2010年に開催されたFIFAワールドカップを機会にインフラ整備が進み、高速道路網、空港と都市部を結ぶ高速電車路線や、専用路線のあるバス輸送網など、十二年前の地球サミット（Rio+10）の頃に比べて格段に良くなっています。しかし、貧富の差、都市部と地方の格差は克服すべき重要な社会・経済問題として残っています。持続的な成長に向けて塩ビ製品が活躍する場面は多々あるように感じます。

■ 随想

◇マラウイ共和国旅行記（1）－マラウイ共和国ってどんな国－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

今年は西アフリカにある某国を訪問する予定でしたが、エボラウイルスの蔓延で私が訪問しようとしていた国も含め、多くの西アフリカの国が国境閉鎖、或は民間航空会社が運航を停止してしまいました。そこで、訪問先を変更し、アフリカのほぼ真ん中に位置するマラウイ共和国にやって来ました。エボラウイルスを避けたとはいえ、最初にエボラウイルスが見つかり、流行が始まったのは、アフリカ中央に位置するコンゴでした。アフリカ中央部でも完全にエボラウイルスがなくなったわけではなく、毎年、数人の罹患者が報告されています。

日本にいてもデング熱に感染したり、温暖化のせい、戦後、日本ではなくなったとされるマラリアの国内感染者が何人も報告されたりするのですから、避けていても意味がないというわけで、今年は中央アフリカ、「マラウイ共和国（Republic of Malawi）」からお送りします。

「マラウイ共和国」、日本国内ではほとんど話題になることがなく、初めて聞く国名だと思われた方も多と思います。この後の回でご紹介をする予定ですが、熱帯魚が好きな方は「マラウイ共和国」と聞くとある有名な種類の熱帯魚を思い出す方もいるかもしれません。

「マラウイ共和国」も他のアフリカ諸国と同様、1891年からイギリスの保護領でした（イギリスの場合、植民地という表現ではなく“イギリス保護領”という言い方をしますが、実態は植民地でした）。その後、1953年にローデシア・ニヤサランド連邦に地域名称を変更。1964年、イギリスより独立し「マラウイ共和国」となりました。

赤道に近い位置にあるため、日本のような四季はなく、大別すると雨季と乾季に分かれます。9月はちょっと涼しい小乾季が終わり、11月末の雨期に入るまでの間は連日30度を超える本格的な乾季となります。とは言っても、マラウイ共和国は地域により標高差が大きく、高地では乾季でも朝方は気温が下がり、暖房が必要となります。

「マラウイ共和国」の主要産業はタバコ、紅茶、サトウキビを原料としてつくる砂糖、山間部も多いためそこで育っている木材を利用した製材、土壌に比較的石灰質が多く含ま



マラウイ共和国 国旗



[クリックで拡大](#)

れる地域があるため、それを利用したセメント業です。何れもほとんどがアフリカの中で消費、利用されるため、日本に輸入されるものはほとんどありません。

逆に日本からはイギリスの保護領だったこともあり、車は日本と同じ、右ハンドル、左側通行なので、日本の中古車が左ハンドルに改造することなく、そのまま大量に輸入されています。空港に迎えに来てくれた車も、エンジンをかけると「ETC カードが挿入されていません」と日本語のガイダンスが流れました。迎えに来てくれたマラウイ人に意味を聞かれ、説明をしたら「謎の言葉の意味がやっと分かった」と喜んでいました (^o^)

マラウイ共和国の面積は 118,484 平方キロメートル。北海道と九州を足し合わせたほどの面積です。その内訳は、陸地が 94,080 平方キロメートル、水場は 24,404 平方キロメートルと約 1/4 が水場となっています。

人口は最新の 2013 年の調査によると 17,377,486 人。

首都は「リロングウェ (Lilongwe)」。

ちなみに、私は今回、首都のリロングウェには立ち寄らず、南アフリカのヨハネスブルグから直接、マラウイ共和国で一番人口の多いブランタイア (Blantyre) という人口 728,000 人ほどの街に来ています。人口 728,000 人というところかなりの大都市を想像しますが、ブランタイアを中心とするブランタイア県に区分される行政区の面積がかなり広いので、実際には街の中心といっても日本の小さな地方都市ほどの規模です。

平均寿命はこれまで訪れたアフリカの国の中では比較的長生きな 59.99 歳 (男性 58.04 歳、女性 61.97 歳)。こちらで入手した統計によると、平均初出産年齢は 18.9 歳とかなり若く、女性一人当たりの出産人数は 5.66 人とアフリカの中でもちょっと多めです (日本は 1.4 人)。14 歳までの子供は総人口の 46.9% を占めています。

HIV (エイズ) の罹患率は 2012 年の調査で 10.8% と世界第 9 位。人口 1,000 人当たりの入院可能なベッド数は 1.3 床しかなく、医療施設の拡充が急務となっています。

民族構成はかなり多彩です。

Chewa 族 : 32.6%, Lomwe 族 : 17.6%, Yao 族 : 13.5%, Ngoni 族 : 11.5%,
Tumbuka 族 : 8.8%, Nyanja 族 : 5.8%, Sena 族 : 3.6%, Tonga 族 : 2.1%,
Ngonde 族 : 1.0%, その他 : 3.5%

人種が多いということは、使われている言語も多いということです。

English (official), Chichewa (common), Chinyanja, Chiyao, Chitumbuka,
Chilomwe, Chinkhonde, Chingoni, Chisena, Chitonga, Chinyakyusa, Chilambya

地元の方同士では、ほとんどの方が Chichewa で会話をしていますが、英語が公用語になっており、幼稚園の時から英語教育が行われているため、私にとっては慌てて現地語を覚える必要がないためコミュニケーションが非常に楽です (^_^)v

宗教に関しては、なぜかはっきりとした統計はないという回答でしたが、大まかには以下のようなようです。

キリスト教 : 約 50%、イスラム教・その他伝統的宗教 : 50%

それでは、マラウイ共和国旅行記の始まりです。

(つづく)

次回は、(2) - 1 種類の魚です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

秋になると必ず「目黒のサンマ」のニュースを耳にします。でも、江戸時代は「目黒の竹の子」も有名だったそうです。

今では想像が付きませんが、江戸時代、目黒は江戸に住む武士や商工人の消費を賄う野菜の供給地として発展したそうです。昔は目黒不動の門前で、“タケノコ飯”として売り出され有名になり、正岡子規ら多くの文人墨客も賞味したと伝えられています。目黒区内では現在「竹の子せんべい」「筍最中」が売られ、今でも竹の子はサンマと共に目黒区のシンボルとなっています。(鷹山)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp